

Mini Effect Gizmo

User's Manual



RJM Music Technology, Inc

日本国内輸入代理店
株式会社ミュゼット・ジャパン / Musette Japan Co.,Ltd.
〒101-0048 東京都千代田区神田司町 2-16-7 第二小林ビル B1

はじめに	2
フロントパネル	3
リアパネル	4
MIDIによる基本操作	6
MIDI CCによるOn/Off設定	7
BANK選択	8
セッティングのバックアップ : SysEx Dump	8
ファクトリーリセット	8
Special Features	9
Audio Buffer - オーディオバッファ	9
Click Stopper - クリックストッパー	9
セットアップモード	10
MIDIチャンネルとその他の設定	10
MIDI Channel - MIDIチャンネル	10
コントロールチェンジナンバーのレンジ設定	11
GCX互換モード	11
MIDIチャンネル設定の保存	11
ワイアリングダイアグラム	12
トラブルシューティング	15
Specifications	16

はじめに

RJM Mini Effect Gizmoをお買い上げ頂きましてありがとうございます。

本製品は、RJM Music Technologyのかねてから高い評価を得ているオーディオループを小型の筐体に収めることで、ペダルボードやラックドロワーのような小型のスイッチャーが求められる場面に合わせてデザインされた製品です。

Mini Effect Gizmoは小型の筐体に5つのトゥルーバイパスオーディオループとプロ仕様のオーディオバッファを搭載しています。オーディオループ回路には一切のアクティブサーキットが用いられず、スイッチャーを導入することによって生じる信号レベルの変化を気にする必要がありません。内部の動作電圧を変換することで高いヘッドルームを実現すると共に高音質バッファとクリックストッパー回路を搭載しています。全ては、極めて小型でありながらプロクオリティのループスイッチャーを実現するための機能です。

フロントパネル

ループスイッチ1-5

オーディオループ1-5のOn/Offに使用します。

ループがOnの時にスイッチ内部のLEDが点灯します。

Writeスイッチ

3秒間の長押しで、オーディオループのOn/Off状態をメモリーに保存します。

Writeスイッチによる保存は、MIDIプログラムチェンジメッセージを受信するまでは機能しません。

詳しくはMIDI USAGEの項をご覧ください。

Writeスイッチは常にグリーンに点灯し、本機のパワーインジケータとして機能します。



リアパネル

Buf In

本機のバッファードインプットです。このジャックに入力された信号はバッファを通過してオーディオループに入力されます。オーディオバッファについて詳しくはSpecial Featuresの項をご覧ください。

In

本機のパッシブインプットです。

このジャックに入力された信号は一切のアクティブサーキットを通らずオーディオループに直接入力されます。この端子を使用する場合は、Buf Inには何も接続しないようにして下さい。

S / R 1-5

本機に搭載された5つのオーディオループのセンド(Send)およびリターン(Return)ジャックです。末尾の番号に該当するオーディオループにそれぞれ割り当てられています。

ループに接続したいエフェクターのInputを本機のSendに、OutputをReturnに接続して下さい。ループがOnの状態になると、当該ループ前段の信号がSendから出力され、Returnに入力された信号は次のループもしくは出力へと出力されます。ループのOffの場合は、前段の信号はループをバイパスして次のループへと接続されます。この時、当該ループのSendジャックはグランドに接続されます。

CS Out

本機のメインアウトプットです。

このジャックから出力される信号は、スイッチング時のノイズを低減するClickStopper(クリックストッパー)回路を通過します。ClickStopperについて詳しくはSpecial Featureの項をご覧ください。

Out

本機のパッシブアウトプットです。

このジャックから出力される信号は、一切のアクティブサーキットを通らずLoop5のアウトプットが直接出力されます。CS OutとOutジャックは必要があれば同時に使用することが可能です。例えば、CS Outジャックをアンプのインプットに接続し、OutジャックはTunerに接続する、といった使用法が考えられます。

MIDI Thru/Out

本機に入力されたMIDI信号はMIDI Thru/Outジャックからそのまま出力されます。

本機の次に接続するMIDIデバイスがある場合にはこのジャックと接続して下さい。

MIDI SysExデータの出力端子としても機能します。詳しくはMIDI Usageの項をご覧ください。

MIDIの接続には通常5pin MIDIケーブルを使用しますが、7pin MIDIケーブルを使用することでファントム電源を供給することも可能です。(接続する機器がファントム電源に対応していることが必要です)

MIDI In

MIDIフットコントローラー等を接続するMIDIインプットです。

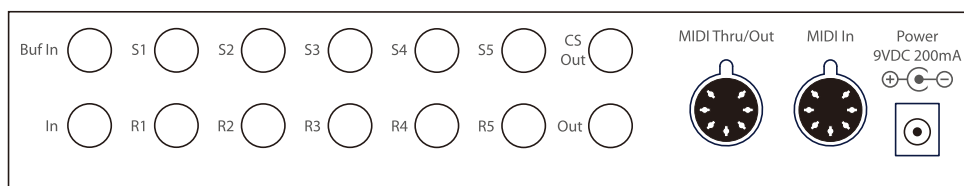
7pin MIDIケーブルを使用することで、本機はファントム電源をMIDIコントローラー等に供給することが可能です。Mini Effect Gizmoの動作には300mAの電流が必要なので、接続機器の動作電圧や直流、交流など電源仕様をご確認の上で使用下さい。

Power

本機の電源端子です。

DC9Vで5.5mm/2.1mmバレルのプラグを使用した電源アダプターをご使用下さい。

本機の動作には300mAの電流が必要です。



MIDIによる基本操作

Mini Effect Gizmoはプログラムチェンジナンバー1-128に、それぞれ異なるファンクションスイッチのOn/Offの組み合わせを保存することが可能です。バンクは0か1を使用可能です。

MIDIプログラムチェンジを受信すると、本機は自動的に該当するプログラムチェンジナンバーに保存されたOn/Off設定を呼び出します。

MIDIが正しく動作するには、MIDI送信機器と受信機器(本機)のMIDIチャンネルが合致している必要があります。**工場出荷時、本機のMIDIチャンネルは1に設定されています。**MIDIコントローラーのチャンネルを1に設定するか、本機のMIDIチャンネルを変更して双方のチャンネルを合致させて下さい。MIDIチャンネルの設定についてはセットアップの項をご覧ください。

プリセットの保存方法は以下のとおりです。

1. **MIDIコントローラーを接続して、ファンクションスイッチのOn/Offを設定したいプリセットを呼び出します**
2. **ファンクションスイッチを押して、LoopのOn/Offを任意に変更します**
3. **Writeスイッチを3秒間押し続け、保存が完了するとLEDが点滅します**

以上です。1から128全てのプログラムナンバーで上記の手順で設定を保存することが可能です。

Writeスイッチを長押ししてもLEDが点滅しない場合は、Mini Effect GizmoがMIDIプログラムチェンジ信号を受信できていないことを表しています。MIDIケーブルの接続と、MIDIチャンネルの設定が正しく行われているかご確認ください。

一度設定が保存が完了すれば、MIDIコントローラーからプログラムチェンジを送信することで任意の設定をリコールすることが可能です。

MIDI CCによるOn/Off設定

本機は、プログラムチェンジ(PC)に加えて、コントロールチェンジ(CC)でもファンクションスイッチのOn/Offを切り替えることが可能です。CCナンバーとバリューのスイッチOn/Offの適合表は下記のとおりです。

コントロールチェンジナンバー	バリュー	Function
CC88	0...63 64...127	Loop 1 off Loop 1 on
CC89	0...63 64...127	Loop 2 off Loop 2 on
CC90	0...63 64...127	Loop 3 off Loop 3 on
CC91	0...63 64...127	Loop 4 off Loop 4 on
CC92	0...63 64...127	Loop 5 off Loop 5 on

セットアップモードで、CCナンバーとファンクションスイッチの組み合わせを変更することが可能です。詳しくはセットアップモードの項をご覧ください。また、モーメンタリーモードやグループモードについてもCCで動作可能です。

BANK選択

Mini Effect Gizmoは、バンク0と1を使うことで、合計256個のプリセットを保存することが可能です。MIDI CC#0(BANK MSB)がバンクセレクトに割り当てられています。0と1以外のバンクナンバーはデータを受信しても本機は無視するようにデザインされています。

セッティングのバックアップ : SysEx Dump

システムエクスクルーシブ(SysEx)データを使うことで本機に保存された設定をMIDI Thru/Out端子から外部に出力することが可能です。これにより、コンピュータや他のMini Effect Gizmoに設定をバックアップ、コピーすることができます。

Mini Effect Gizmoの電源投入時にLoopスイッチ5を押し続けて下さい。
本機は直ちにSysEx Dumpを行います。動作の完了には数秒の時間を要します。

他のMini Effect Gizmoに設定をコピーする場合には、コピー元のMini Effect GizmoのMIDI Thru/Out端子をコピー先のMini Effect GizmoのMIDI InにMIDIケーブルで接続して、コピー元のMini Effect Gizmoの電源をLoopスイッチ5を押しながら投入して下さい。(この時、コピー先のMini Effect Gizmoは電源が投入されていて、かつ**セットアップモードではない**が必要です) コピー先のMini Effect Gizmoはデータの受信が始まるとLEDで進行度を表示します。データ送信は極めて高速なので、ほんの数秒で終了するはずです。

エラーがあった場合、コピー先のMini Effect Gizmoの全LEDが5回点滅します。

データ送信が完了すると、コピー先のMini Amp Gizmoは再起動して通常動作に復帰します。

ファクトリーリセット

Mini Effect Gizmoを工場出荷時の状態に戻す場合は、Loop1スイッチとLoop4スイッチを押しながら電源を投入して下さい。LEDが素早く点滅したら、Mini Effect Gizmoは工場出荷時の状態に戻ったことを表しています。

Special Features

Audio Buffer - オーディオバッファ

ケーブルを長く引き回したり、エフェクターを複数接続すると、信号劣化の原因となり、ギターサウンドに明瞭さが失われることがあります。オーディオバッファはそうした音質の劣化を回避するために、ギターの信号を「強化」するために用いられます。オーディオバッファを用いることにより感じられる効果の大きさは、ケーブルの長さやギターシステムの規模の大きさにより異なります。

本機の**Buf In**ジャックに接続された信号はインプットバッファを通過し、**In**ジャックに接続された場合はバッファをバイパスしてオーディオループへ入力されます。上記のように、AudioBufferの効果はお使いのシステムにより異なりますので、使うべきかどうか実際にお試しになられてみることをお勧めします。

Click Stopper - クリックストッパー

Mini Effect Gizmoでは、各ループのスイッチングにリレー回路を用いています。リレー回路を使ったオーディオスイッチングは、サウンドがクリアで明瞭さを失わず、方法論も確立された技術ですが、スイッチング時に微小なポップノイズが生じてしまうのが欠点とされています。このポップノイズはハイゲインアンプやオーバードライブ、ディストーションといったエフェクターを使用した際に目立ちがちです。Click Stopperは、スイッチング時に極めて短い間アウツプットをミュートすることで、リレー回路を使用したオーディオスイッチングにおけるポップノイズを回避するためにデザインされた機能です。

バッファと同様に、**CS Out**ジャックからはClickStopperを通過した信号が出力され、**Out**ジャックからはClickStopperをバイパスした信号が出力されます。お使いのシステムではClickStopperを使用するかどうかを選択することが可能です。

もし、**In**ジャックと**Out**ジャックを使用した場合、AudioBufferもClickStopperも使用せず、ギター信号はリレー回路のみを通過することとなり、本機は完全なるパッシブのオーディオスイッチャーとして機能することになります。

セットアップモード

MIDIチャンネルとその他の設定

Mini Effect Gizmoの設定を行うには、まずセットアップモードに入ることが必要です。

LEDが点滅するまで**ファンクションスイッチ1**を押し続けながら本機の電源を投入すると、セットアップモードが起動します。設定が完了したら、**Write**ボタンを押すと設定を保存して通常動作に復帰します。

MIDI Channel - MIDIチャンネル

工場出荷時、Mini Effect GizmoはMIDI Ch.1に設定されています。

本機のMIDI Ch.を変更する場合は、任意のMIDI Ch.に対応したLoopスイッチ1-4の組み合わせを下図から参照して点灯させて下さい。

(ex. MIDI Ch.16に設定したい場合は、1, 2, 3, 4をOnにします)

MIDI Channel	Switch 1 LED	Switch 2 LED	Switch 3 LED	Switch 4 LED
1	OFF	OFF	OFF	OFF
2	ON	OFF	OFF	OFF
3	OFF	ON	OFF	OFF
4	ON	ON	OFF	OFF
5	OFF	OFF	ON	OFF
6	ON	OFF	ON	OFF
7	OFF	ON	ON	OFF
8	ON	ON	ON	OFF
9	OFF	OFF	OFF	ON
10	ON	OFF	OFF	ON
11	OFF	ON	OFF	ON
12	ON	ON	OFF	ON
13	OFF	OFF	ON	ON
14	ON	OFF	ON	ON
15	OFF	ON	ON	ON
16	ON	ON	ON	ON

コントロールチェンジナンバーのレンジ設定

Loopスイッチ5は本機のLoop1-5とコントロールチェンジ(CC)ナンバーの対応レンジの選択に割り当てられています。

CC Range	GCX Number	Switch 5 LED
80...84	1	OFF
88...92 (default)	2	ON

GCX互換モード

Loopスイッチ1, 2, 3, 4をOnにすると、本機はGCX互換モードとなります。

GCX互換モードでは、Voodoo Lab製のスイッチャーであるGCXと同様のMIDI動作をするようになります。すなわち、MIDIチャンネルの設定は無視して**MIDI Ch.16のコントロールチェンジのみに反応して動作する**ようになります。コントロールチェンジナンバーのレンジ設定は上図を参照して下さい。

MIDIチャンネル設定の保存

設定が完了したら、**Write**ボタンを押すと設定を保存して通常動作に復帰します。

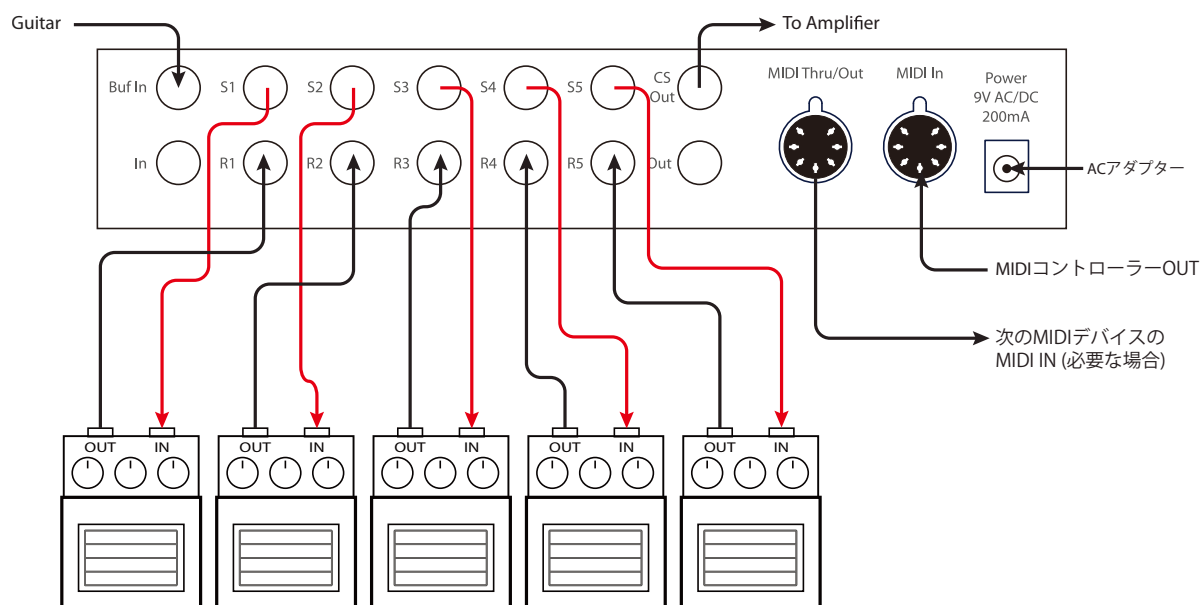
ワイアリングダイアグラム

本機とエフェクトシステムの接続例を記載します。

エフェクトシステムによって様々な接続が考えられますので一例としてお考え下さい。

Ex.1 最も標準的なワイアリング

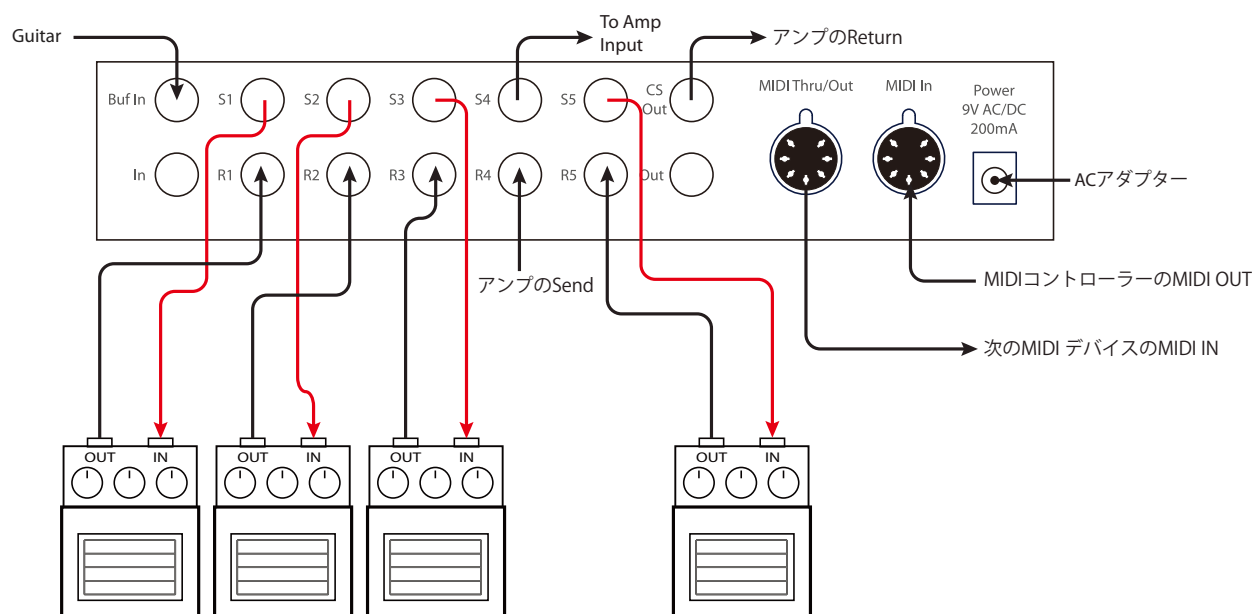
エフェクター5台を直列に接続する最も標準的なワイアリング



Ex.2 アンプのプリ/ポストでMini Effect Gizmoを使用する場合

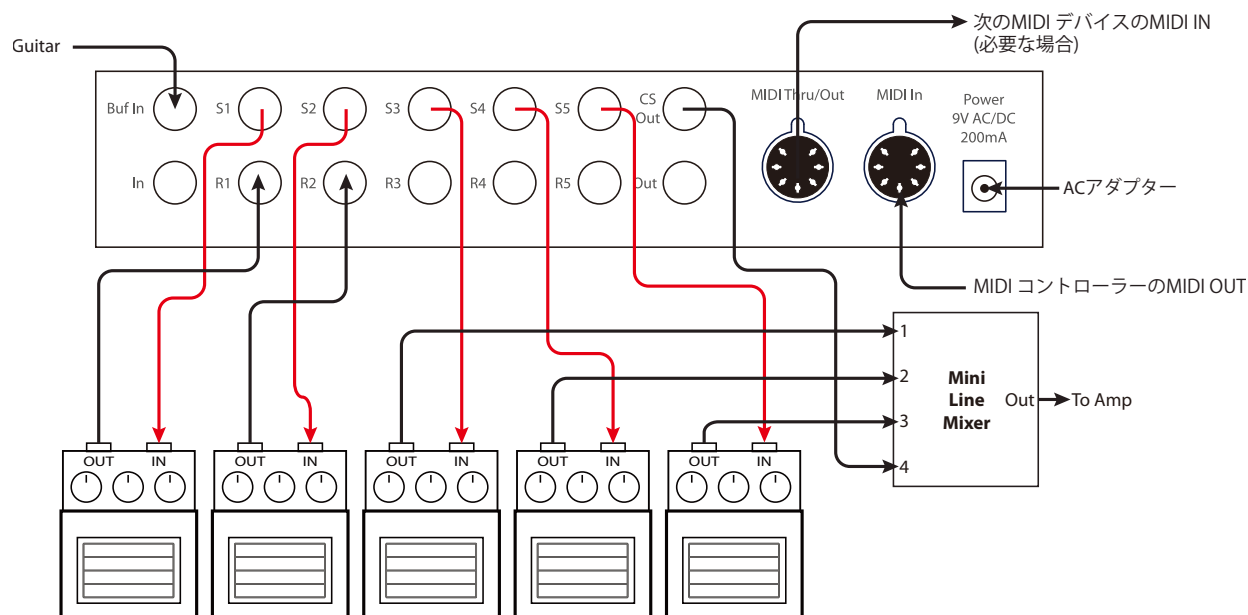
最初の3つのLoopはアンプ前で、Loop5をアンプのポスト(後段)で使用します。

Loop4はアンプとのSend/Returnとして使うので、常にOnにするようにして下さい。



Ex.3 Mixerと組み合わせてMini Effect Gizmoを使用する場合のワイアリング

オーバードライブやコンプレッサーを直列で使用し、ディレイ、コーラス、リヴァーブといった空間系エフェクトをMixerを使用して平行接続します。ミキサーを用いてドライとの分離感のいいサウンドが得られるのが特長です。



トラブルシューティング

よくあるご質問をまとめました

Question

Writeボタンを押してもLEDが点滅しない

Answer

Mini Effect Gizmoは、MIDIプログラムチェンジメッセージを受信してからでないとWriteが行えません。MIDIコントローラー等を本機に正しく接続してプリセットを呼び出してからWriteボタンを押して下さい。また、MIDI Chが正しく設定されているかどうか合わせてご確認ください。

Specifications

寸法	8.5(W) x 1.6(H) x 3.5(D) Inches 21.6(W) x 4.1 (H) x 8.9(D) cm
重さ	21.7オンス 615グラム
電源	9VDC @ 300mA 5.5mm OD, 2.1mm ID x 9.5mm barrelコネクター
ファントム電源	本機のPowerジャックに入力された電源がMIDI In, MIDI Thru/Outジャックのpin6, 7に供給されます
メモリー	256 プログラム (2バンク)